

文学部専門教育科目

第1類に属する科目

哲学(専門)②

講師 奥村 大介

講師 金成 祐人

この講義では空間と場所をめぐる哲学を扱います。哲学史上、時間論に比べて、空間に関する議論は幾分マイナーな位置にあるかもしれませんが、しかし、人間の生にとって、空間の経験が時間の経験に比べても決して軽視できない役割を有していることは日常的な実感からも明らかでしょう。

金成が担当する前半(第1回～第6回)では、現象学を手がかりに、客観的に測定可能な距離とは異なる空間のあり方について検討します。奥村が担当する後半(第7回～第12回)では、古代から現代までの空間と場所に関わる思想の歴史を概観したのち、そこからいくつかのトピックを選んで議論します。

〔第1回〕 導入(前半)―現象学的空間論は何を問題としているか

〔第2回〕 フッサールの空間論

〔第3回〕 ハイデガーの空間論(1)

〔第4回〕 ハイデガーの空間論(2)

〔第5回〕 メルロ＝ポンティの空間論

〔第6回〕 現象学的空間論総括―生きられる空間

〔第7回〕 導入(後半)―空間と場所の思想史：プラトンからポストモダン地理学まで

〔第8回〕 崇高な空間―山岳の美学、幻視の建築

〔第9回〕 空間を管理する―病院、監獄、地政学

〔第10回〕 幸福な場所―バシュラルの空間論

〔第11回〕 群衆のなかの孤独―都市という経験

〔第12回〕 非在の場所／良き場所―ユートピアの思想

テキスト：指定しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考文献：ハイデガー著・原佑、渡邊二郎訳『存在と時間』(中央公論新社、2003年)
バシュラル著・岩村行雄訳『空間の

詩学』(ちくま学芸文庫、2002年)

他にも参考文献についてはその都度紹介します。

受講上の要望または受講上の前提条件

哲学に関する予備知識は特に必要ありません。問題やその背景はこちらで説明しますので、皆さんは自分でしっかりと考えてください。

成績評価方法

レポート課題(2回)の結果を最も重視します。また、授業時に配布するリアクション・ペーパーに書いていただいた質問や意見も平常点として加味します。

倫理学特殊②

文学部教授 柘植 尚則

経済は人間や社会に大きな影響を与えます。この講義では、経済における倫理的な問題について考え、人間や社会にとって望ましい経済のあり方を探ります。

〔第1回〕 経済倫理学とは

〔第2回〕 経済倫理の歴史

〔第3回〕 経済倫理学の歴史

〔第4回〕 経済倫理学の原理

〔第5回〕 労働

〔第6回〕 企業

〔第7回〕 市場

〔第8回〕 経済システム

〔第9回〕 福祉

〔第10回〕 環境

〔第11回〕 消費

〔第12回〕 総括・試験

テキスト：柘植尚則『プレップ経済倫理学』(弘文堂、2014年9月刊行予定)

成績評価方法

最終日の試験による。

美 学②

文学部教授 大石 昌史

「西洋美学史」として、以下の11の思想家・項目について講義する。

- 〔第1回〕〔導入、および〕美学と芸術学
- 〔第2回〕プラトン（美学の源流）
- 〔第3回〕アリストテレス（芸術学の創始）
- 〔第4回〕プロティノス（古代哲学の総合）
- 〔第5回〕中世とルネサンスの美学
- 〔第6回〕近代の芸術論と美学＝感性論
- 〔第7回〕カント（感性の論理）
- 〔第8回〕ロマン主義の美学
- 〔第9回〕ヘーゲル（歴史と体系の融合）
- 〔第10回〕ニーチェ（創造の美学）
- 〔第11回〕現代美学の動向（感情美学、現象学的美学、解釈学的美学）
- 〔第12回〕〔総括、および〕試験

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：参考文献は授業中に指示する。

受講上の要望または受講上の前提条件

美学史の講義であって、芸術作品を鑑賞・評価する授業ではないことに注意。

成績評価方法

最終日の試験による。

西洋美術史②

講師 大谷 公美

16世紀後半から17世紀前半にかけて、プロテスタントの台頭に危機感を抱いたカトリック教会は、自らを肅正し教会の立て直しに動きます。この時、信徒の心をつかむための有効な手段として、大いに利用されたのが美術の力でした。カトリック改革の大きなうねりのなかで、美術は革新を重ね、時代の要請に応えます。

今期の講義では、カトリック改革期の聖堂装飾や絵画に焦点を当て、時とともに変化する表現様式や意味の変遷を概観します。

- 〔第1回〕イントロダクション
- 〔第2回〕カラヴァッジョとバロック美術の始まり
- 〔第3回〕イタリアのバロック美術
- 〔第4回〕フランドル・オランダのバロック美術
- 〔第5回〕スペインのバロック美術
- 〔第6回〕フランスのバロック美術（1）

〔第7回〕フランスのバロック美術（2）

〔第8回〕悔悛の聖人／病気の守護聖人

〔第9回〕マグダラのマリア像の変遷（1）

〔第10回〕マグダラのマリア像の変遷（2）

〔第11回〕教訓的風俗画

〔第12回〕総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

受講上の要望または受講上の前提条件

受講にあたり、できるだけ多く美術館に足を運び、実際の作品を鑑賞することを心がけて下さい。

成績評価方法

出席状況、授業内レポート、試験により総合的に評価します。

音楽史②

講師 加藤 浩子

「オペラ入門とヴェルディ&ワーグナーのオペラ」

この講義では、「オペラ」をテーマとし、前半6回は「オペラ入門」として、オペラとは何かについて概観する。後半6回は、オペラ全盛時代の19世紀において変革者の役割を果たしたヴェルディとワーグナーについて集中的にとりあげ、2人の業績を紹介する。主な内容は以下の通り。

〔第1回〕オペラ入門 1 オペラって何？

〔第2回〕オペラ入門 2 オペラの楽しみ方
その1〔第3回〕オペラ入門 3 オペラの楽しみ方
その2

〔第4回〕オペラ入門 4 オペラの歴史 その1

〔第5回〕オペラ入門 5 オペラの歴史 その2

〔第6回〕オペラ入門 6 オペラの歴史 その3

〔第7回〕ヴェルディの魅力と業績 その1

〔第8回〕ヴェルディの魅力と業績 その2

〔第9回〕ヴェルディの魅力と業績 その3

〔第10回〕ワーグナーの魅力と業績 その1

〔第11回〕ワーグナーの魅力と業績 その2

〔第12回〕ワーグナーの魅力と業績 その3

テキスト：前半：加藤浩子『ようこそオペラ！』（春秋社、2011年）

後半：加藤浩子『ヴェルディ』（平凡

2014夜間 文学部専門教育科目

社新書、2013年)

参考文献：参考文献については講義中に指示する
受講上の要望または受講上の前提条件

音楽的な知識はとくに必要ないが、映像を使用
するため、講義中の私語、飲食などは控えること。
またやむを得ず遅れた場合の入室はくれぐれも静
かに行ってほしい。

成績評価方法

レポート2回。試験は行わない。出欠はとらな
いが、平常点として、感想文の提出、小テストな
どを抜き打ちで行うことがあります。

社会心理学(専門)② 講師 村山 陽

本授業では、社会心理学の基礎的知識を学ぶと
ともに、それを高齢社会の社会問題の解明に応用
することを目指します。社会心理学とは、「心と
社会との関係」を扱う学問です。研究対象は、個
人、対人関係、集団・組織、社会全体と幅広く、様
々な学問領域との相互連携が展開されております。
そのため、高齢社会が抱える諸問題（高齢者への
偏見、世代間ギャップ、高齢者介護など）の解決
に向けて、社会心理学の知識が活用されることが
大いに期待されます。

〔第1回〕 社会心理学とは（1）社会心理学の成
立

〔第2回〕 社会心理学とは（2）社会心理学の研
究方法

〔第3回〕 自己認知：自分を知る

〔第4回〕 対人認知：人を理解する

〔第5回〕 社会的認知：社会を理解する

〔第6回〕 態度変化：人の気持ちを変える

〔第7回〕 攻撃と援助

〔第8回〕 社会的ジレンマ

〔第9回〕 高齢社会の社会心理学（1）高齢者へ
の偏見

〔第10回〕 高齢社会の社会心理学（2）高齢者サ
ポート

〔第11回〕 高齢社会の社会心理学（3）世代間交
流

〔第12回〕 まとめ・試験

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：山田一成他『よくわかる社会心理学』

（ミネルヴァ書房、2007年）

ISBN 978-4-623-04812-0

加藤潤三他『コミュニティの社会心理
学』（ナカニシヤ出版、2013年）

ISBN 978-4-7795-0804-2

我妻洋『社会心理学入門 上・下』（講
談社、1987年）

ISBN 978-4-06-158806-0（上）

ISBN 978-4-06-158807-9（下）

受講上の要望または受講上の前提条件

受講前に専門的知識は必要ありませんが、授業
中に紹介される参考文献をできるだけ読んでもら
いたいと思います。

成績評価方法

最終日の試験、出席状況、受講態度により評価
します。

宗 教 学② 講師 藤野 陽平

これまでの日本社会は公的な場に個人的な信仰
を持ちこまないことが求められることが多かった
ですが、グローバル化が急速に進む現代社会では
様々な出自の人々と付き合うために最低限度の宗
教文化理解が必要とされはじめています。

また、一般に「無宗教」とされる日本社会も身
近なところで宗教に関係していることがおおくあ
ります。

そこで、現代社会理解、国際人として最低限の
宗教情報リテラシー獲得のために、本講座では個
別の宗教の教義や思想よりも、宗教をとりまく社
会情勢を理解することを目的とします。

〔第1回〕 イントロダクション：現代社会理解の
ための宗教文化理解

〔第2回〕 宗教文化理解によるチャンスとトラブ
ル

〔第3回〕 グローバルな社会での宗教文化理解の
重要性：人の移動と宗教

〔第4回〕 情報化時代のカルト問題

〔第5回〕 ソーシャルキャピタルとしての宗教

〔第6回〕 シャーマニズムと癒しの実践

〔第7回〕 宗教からみる世界の政治①

〔第8回〕 宗教からみる世界の政治②

〔第9回〕 近代化と東アジアのキリスト教①

〔第10回〕 近代化と東アジアのキリスト教②

〔第11回〕 近代化と東アジアのキリスト教③

〔第12回〕 総括

テキスト：高橋典史・岡本亮輔・塚田穂高編『宗教と社会のフロンティア：宗教社会学からみる現代日本』（勁草書房、2012年）
ISBN 978-4-326-60242-1

井上順孝編『要点解説 90分でわかる！ビジネスマンのための「世界の宗教」超入門』（東洋経済新報社、2013年）
ISBN 978-4-492-22332-1

参考文献：山中弘・藤原聖子編『世界は宗教とこうしてつきあっている—社会人の宗教リテラシー入門』（弘文堂、2013年）
ISBN 978-4-335-16073-8

成績評価方法

期末試験による。

教育学概論②

講師 翟 高燕

この講義は、世界における教育の理念、方法、制度の大枠を理解したうえで、さまざまなタイプの教育学を概観することを目的としている。この二つの考察を通じて、他の実践行為とは異なる「教育」の特質と、他の学問とは異なる「教育学」の特質を明らかにしていく。主に、学問的視座・理論的枠組みから、「教育」を考え直す契機にしてもらいたい。日本だけに限定せず、海外の教育、そして教育学を知ることによって、日本のコンテキストを相対化し、多角的な視点で現象や物事を捉える機会となれば幸いである。

〔第1回〕 イントロダクション：授業の進め方、評価について

「教育」と「教育学」

教育の領域：家庭・学校・社会の三つの場におけるそれぞれの教育の機能

〔第2回〕 教育内容：世界および日本における教育内容の概観

〔第3回〕 教育課程：教育課程の意義と内容、学校における教育課程の編成

〔第4回〕 教育方法・授業：子どもの成長・発達、授業のあり方

〔第5回〕 教育活動・生活指導・特別活動：授業

以外の教育活動

〔第6回〕 教育制度：世界及び日本における学校制度の形成、現代日本の学校制度の概観

〔第7回〕 教育政策：世界および日本における教育政策の現状、日本の教育政策の概観

〔第8回〕 教育行政・学級経営・学校運営：原理的に教育行政を考察した上で、世界および日本の学校と学級についての概観

〔第9回〕 教育哲学・教育思想：理論概観

〔第10回〕 伝統的教育学：教育の「本質規定」

〔第11回〕 批判的教育学：教育行為・現実の「批判」

〔第12回〕 総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：松浦良充・北野秋男・豊泉清浩・高橋寛人『いま教育を考えるための8章：現代教育の基礎理論〔改訂版〕』（川島書店、1999年）

ISBN 978-4-7610-0685-3

パウロ・フレイレ著、三砂ちづる訳『被抑圧者の教育学—新訳』（亜紀書房、2011年）

ISBN 978-4-7505-1102-3

パウロ・フレイレ著、里見実訳『希望の教育学』（太郎次郎社、2001年）

ISBN 978-4-8118-0663-1

受講上の要望または受講上の前提条件

授業は講師による一方的な講義だけでなく、双方向的な要素を盛り込むつもりである。具体的には、討論やグループワークなどの活動も取り入れる予定である。その中で「自分はどのように考えるのか」を常に意識し、それを表現して、他人と共有することを大事にしてもらいたい。

成績評価方法

小レポート、討論などへの参加、最終レポートにより、総合的に評価する。

図書館・情報学②

講師 長谷川豊祐

「大学生・社会人としての基本的情報リテラシーを学ぶ」

情報を正しく理解・評価・活用する基本的能力

2014夜間 文学部専門教育科目

について、講義と演習によりスキルを高めます。レポートや論文の執筆に必要な文献の調査・入手、論文のテーマ設定などの実践的な知識が身に付きます。

- 〔第1回〕 オリエンテーション、学問や実践的ツールとしての「図書館・情報学」
- 〔第2回〕 メディアを組織化して利用者に提供する仕組みとしての「図書館」(1)
- 〔第3回〕 同「図書館」(2)
- 〔第4回〕 情報を蓄積し伝達する図書、雑誌、インターネットなどの「情報メディア」(1)
- 〔第5回〕 同「情報メディア」(2)
- 〔第6回〕 情報メディアの収集、提供、保管を行うための「資料組織」(1)
- 〔第7回〕 同「資料組織」(2)
- 〔第8回〕 データベースやインターネットで情報を探索・入手するための「情報検索」

(1)

- 〔第9回〕 同「情報検索」(2)
 - 〔第10回〕 社会人に必要なコミュニケーション技術としての「情報発信・学術情報流通」(1)
 - 〔第11回〕 同「情報発信・学術情報流通」(2)
 - 〔第12回〕 総括、試験
- テキスト：プリントを適宜配布する。
参考文献：上田修一・倉田敬子編著『図書館情報学』(勁草書房、2013年)
ISBN 978-4-326-00038-8

受講上の要項または受講上の前提条件

講義の理解を助けるために、出席確認を兼ねた簡単な理解確認テストを毎回実施する。講義時間外での演習として2回程度の課題提出を求める。

成績評価方法

出席、課題提出、試験(最終回)により総合的に評価する。

第2類に属する科目

日本史特殊②

文学部教授 三宅 和朗

授業では環境史を扱う。東日本大震災を機に日本古代史の分野でも環境史に踏み込んだ研究がなされるようになった。そこでは災害と人々との関わりを究明するものが多い。しかし、環境は災害という非日常の現象ばかりではない。人間にとって身近な人間も環境の一部のはずである。このように捉えれば、環境史の視野は大きく広がる。そこで、本夜間スクーリングでは、日本古代史の分野で環境史を扱う意義として「日本古代史研究と環境史」、環境史研究の具体例として「古代の人々の心性と巨樹」「古代の神社と自然界」を講義する。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 日本古代史研究と環境史①
- 〔第3回〕 日本古代史研究と環境史②
- 〔第4回〕 日本古代史研究と環境史③
- 〔第5回〕 日本古代史研究と環境史④
- 〔第6回〕 古代の人々の心性と巨樹①
- 〔第7回〕 古代の人々の心性と巨樹②
- 〔第8回〕 古代の人々の心性と巨樹③
- 〔第9回〕 古代の人々の心性と巨樹④

〔第10回〕 古代の神社と自然界①

〔第11回〕 古代の神社と自然界②

〔第12回〕 総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

成績評価方法

最終日の試験による。

西洋史特殊②

講師 針谷 寛

19世紀ドイツは近代社会への大きな転換期である。この講義では、ドイツ労働運動史のなかから素材をとって、この社会変化のいくつかの側面を検討する。対象としては、皮なめし職人として哲学と社会主義の理論に取り組み、労働運動に影響を残したヨーゼフ・ディーツゲンをとりあげ、その活動をたどりながら、時代の諸問題を見ていく。また、ドイツの近代化の問題について論じたカント、ヘーゲル、マルクスの理論とつきあわせながら、理論的問題にもふれる。

授業計画

〔第1回〕 はじめに

〔第2回〕 従来のディーツゲン像とその時代の意

識

- 〔第3回〕 ディーツゲンの生涯と活動の概観
 - 〔第4回〕 ディーツゲンの認識論
 - 〔第5回〕 近代社会理論の問題 (1. カント)
 - 〔第6回〕 ディーツゲンのカント批判
 - 〔第7回〕 近代社会理論の問題 (2. ヘーゲル)
 - 〔第8回〕 近代社会理論の問題 (3. マルクス)
 - 〔第9回〕 ディーツゲンの社会理論
 - 〔第10回〕 ドイツ近代化と労働者運動
 - 〔第11回〕 マルクス、エンゲルスのディーツゲン評価について
 - 〔第12回〕 ディーツゲン像の再検討
- テキスト：使用しません。必要に応じてレジュメ、資料などのプリントを配布します。

参考文献：授業のなかで紹介します。

成績評価方法

レポートによる評価。

民族学② 文学部教授 山口 徹

民族学は人間文化の総合的な理解を求める学問である。その研究対象となる文化自体は、つねに構築され更新されるものだから、その変化のプロセスを捉えるためには歴史学の視点が必要になる。民族学は文化研究における「歴史」の取り扱いを強く意識してきた領域であり、ここに関連分野の文化人類学との微妙だが重要な差異がある。そこで本講義では、エスノヒストリーや歴史人類学の議論を参照しながら、構築される歴史について考察する。

- 〔第1回〕 文化研究の総合性：フレーザーの『金枝篇』を出発点に
- 〔第2回〕 「森の王」はなぜ死ぬのか？
- 〔第3回〕 キャプテン・クックの死をめぐる歴史構造主義
- 〔第4回〕 メタナラティブな歴史物語「文化進化

論」の誤謬

- 〔第5回〕 ドイツ流歴史民族学と現在の意味：文化のハイブリディティ
- 〔第6回〕 日本における文化研究（民俗学と民族学）の歴史
- 〔第7回〕 確率論的過程としての歴史
- 〔第8回〕 文化相対主義：ポアズとレヴィ＝ストロース
- 〔第9回〕 いきすぎた文化相対主義を乗り越える
- 〔第10回〕 構造主義と歴史研究の節合：親族の基本構造論を通して
- 〔第11回〕 絡み合いの歴史人類学：メラネシアのカーゴ・カルトを事例に
- 〔第12回〕 絡み合いの歴史生態学：オセアニアの島の景観史

テキスト：プリントを適宜配布する。

参考文献：M. サーリンズ『歴史の島々』（法政大学出版局、1993年）

R. ワグナー『文化のインベンション』（玉川大学出版部、2000年）

保莉実『ラディカル・オーラル・ヒストリー—オーストラリア先住民アボリジニの歴史実践』（御茶の水書房、2004年）

吉岡政徳『反・ポストコロニアル人類学』（風響社、2005年）

吉岡政徳監修『オセアニア学』（京都大学学術出版会、2009年）

受講上の要望または受講上の前提条件

講義では、パワーポイントを使用しながら、資料をスライド提示します。板書以外にも、適宜ノートを取るようになしてください。

成績評価方法

期末試験70%、出席30%で評価します。

第3類に属する科目

国文学古典研究② 文学部教授 石川 透

日本文学の内、室町物語（御伽草子）について、具体的に一つの作品を変体仮名で読み進めながら、文学の特徴を理解する。作品については、授業の

開始前に通知する。室町物語の文章は、いわゆる変体仮名で記されており、一見難しく感じる。しかし、変体仮名は夜間スクーリングのように集中して勉強すれば、読めるようになる。

授業予定

- 〔第1回〕 序論 室町物語について 絵巻と絵本を見る
- 〔第2回〕 変体仮名の勉強の仕方
- 〔第3回〕 本文を読む1
- 〔第4回〕 本文を読む2
- 〔第5回〕 本文を読む3
- 〔第6回〕 本文を読む4
- 〔第7回〕 本文を読む5
- 〔第8回〕 本文を読む6
- 〔第9回〕 本文を読む7
- 〔第10回〕 本文を読む8
- 〔第11回〕 本文を読む9
- 〔第12回〕 総括 まとめる

テキスト：後日『ニューズレター慶應通信』誌上で指示する。

参考文献：授業時に指示する。

受講上の要望または受講上の前提条件

短期間で集中して勉強すれば、明治以前に使われた変体仮名はほぼ読めるようになるので、予習復習を欠かさずに行ってほしい。

成績評価方法

最終日の試験による。

中国文学②

講師 宮下 聖俊

中国古典文学の中心は詩（中国古典詩）であり、中国古典詩は唐代にひとつの隆盛期を迎える。その唐詩を、我々日本人は古来のいわゆる漢文訓読法で読み親しんできた。それは簡便な方法である反面、実は中国古典詩の持つ本来の味わいを見落とさせる原因でもあったのではないか。そのような意識のもと、唐詩を中核に据え、中国古典詩を講読していきたい。当然、中国古典詩に関する種々の知識も、あわせて概説していく。

- 〔第1回〕 はじめに 詩を頭から読む
- 〔第2回〕 李白の詩を読む
- 〔第3回〕 六朝詩を読む
- 〔第4回〕 杜甫の詩を読む
- 〔第5回〕 漢魏詩を読む
- 〔第6回〕 楽府詩を読む
- 〔第7回〕 詩語という見方（1）
- 〔第8回〕 詩語という見方（2）

〔第9回〕 白居易の詩を読む

〔第10回〕 李商隱の詩を読む

〔第11回〕 杜牧の詩を読む

〔第12回〕 試験および総括

テキスト：プリントを適宜配布する。

受講上の要望または受講上の前提条件

漢文や現代中国語の学習歴の有無は問わない。

成績評価方法

- 1) 全12回の内、三分の二以上の出席を成績評価の前提条件とする。
- 2) 最終日の試験による。

イギリス文学②

文学部准教授 高橋 宣也

〈シェイクスピアと音楽〉

ウィリアム・シェイクスピアが生まれて今年で450年になりますが、彼の芝居は今も世界中で上演されています。その作品は、長年にわたって多くの観客を魅了すると同時に、様々な時代、ジャンルの芸術家に刺激を与えてきました。なかでも音楽の分野では、作曲家たちがこぞってシェイクスピアを素材に曲を書いています。そして数多くのオペラやオーケストラ作品、歌曲などが生まれてきました。しかし、当然ながら、音楽作品にする過程で原作は手を加えられ、変質します。

この授業では、そうした改変の行われ方を、シェイクスピアの代表作を通してたどっていきます。それは逆に、何がシェイクスピアにおいて本質的なのかを探ることもなります。様々な音楽の例に接することで、改変によってかえって浮かび上がるシェイクスピアの特徴、現代にも変わらずアピールする人間洞察の魅力を知ることができるでしょう。

オペラその他の映像や音を観て聴く機会を多く設ける予定です。

- 〔第1回〕 イントロダクション、『ロミオとジュリエット』（1）：ベルリオーズの劇的交響曲、グノーのオペラ、プロコフィエフのバレエ音楽、ロータの映画音楽
- 〔第2回〕 『ロミオとジュリエット』（2）
- 〔第3回〕 『ロミオとジュリエット』（3）
- 〔第4回〕 『ハムレット』：トマのオペラ、ベルリオーズ、R・シュトラウスの歌曲

- 〔第5回〕 『夏の夜の夢』(1)：メンデルスゾーンの劇付随音楽
- 〔第6回〕 『夏の夜の夢』(2)
- 〔第7回〕 シェイクスピアの中の音楽：『ヴェニスの商人』、『リチャード二世』ほか
- 〔第8回〕 『オセロー』(1)：ヴェルディのオペラ《オテロ》
- 〔第9回〕 『オセロー』(2)
- 〔第10回〕 『ウィンザーの陽気な女房たち』(1)：ヴェルディのオペラ《ファルスタッフ》
- 〔第11回〕 『ウィンザーの陽気な女房たち』(2)：ヴェルディのオペラ《ファルスタッフ》
- 〔第12回〕 まとめと試験

テキスト：使用しない。

参考文献：特になし。

受講上の要望または受講上の前提条件

計画表は目安ですので、進度により適宜変更することもあります。演劇と音楽という二つのジャンルを頻繁に行き来するので、あらかじめ扱われる作品を読んで内容を知っておいて頂きたいと思えます。シェイクスピアはどの作品も翻訳されています(例えば小田島雄志訳)。

成績評価方法

最終日の試験による。

ドイツ文学史② 文学部教授 糸川麻里生

ドイツ文学を研究するための基礎知識を学びます。各時代の傾向、重要な文章や著作家を知っていくとともに、文学研究のために必要な諸概念にも触れていきます。対象はドイツ文学ですが、文学研究全般の助けになるような講義にしたいと思います。

- 〔第1回〕 「ドイツ文学」、「ドイツ文学研究」とは何か～古代の「ドイツ語」
- 〔第2回〕 中世(1)
- 〔第3回〕 中世(2)
- 〔第4回〕 ルネサンスとバロック
- 〔第5回〕 啓蒙主義
- 〔第6回〕 ゲーテ時代(1)
- 〔第7回〕 ゲーテ時代(2)
- 〔第8回〕 ロマン派(1)
- 〔第9回〕 ロマン派(2)

〔第10回〕 リアリズムと自然主義

〔第11回〕 20世紀～現在

〔第12回〕 補足&総括

テキスト：柴田翔編著『初めて学ぶドイツ文学史』(ミネルヴァ書房、2003年)

ISBN 978-4-623-03712-4

参考文献：教室で適宜紹介します

成績評価方法

最終日の試験による

フランス文学② 文学部助教 西野 絢子

「ポール・クローデルと能」

20世紀最大のフランス劇詩人クローデルは、作家であると同時に外交官でした。大使として大正期の日本に滞在中、日本の文化、特に伝統演劇に強い感銘を受け、深い理解を示しました。講義では、クローデルが日本演劇をどのように解釈し、それをどのように自分の創作活動に活かしたのか、という問いについて、能の影響を中心に考察していきます。まず、能体験前のクローデルの作品、次に能に関する記述、そして能体験後の作品を、具体的な資料や映像、劇テキストの分析をもとに解読し、読み比べます。日本の楽劇、能、に対するクローデルの鋭いまなざしを通じ、日本人である私達は、果たして能を理解しているのか、また、一期一会の舞台芸術を理解するとはどういうことなのか、についても問いかけてみましょう。クローデルと能の出会いを、西洋における能の受容史の中で位置づけることも試みますので、広い視点から演劇の普遍性について考察することも可能です。フランス文学だけでなく、日本の文化や演劇、そして日仏文化交流に関心のある方も、是非一緒に取り組んでいきましょう。

- 〔第1回〕 イントロダクション ポール・クローデルについて(生涯と作品)
- 〔第2回〕 能体験前のクローデルの作品と特徴『真昼に分かつ』など
- 〔第3回〕 クローデルの能体験① 『道成寺』、『翁』
- 〔第4回〕 クローデルの能体験② 『羽衣』、『景清』、『隅田川』
- 〔第5回〕 クローデルの能解釈① エッセイ

- 「能」、『朝日の中の黒い鳥』所収
- 〔第6回〕 クローデルの能解釈② 歴史的独自性の考察
- 〔第7回〕 能体験後のクローデルの作品① 日本滞在中の作品 その1
- 〔第8回〕 能体験後のクローデルの作品② 日本滞在中の作品 その2 『繻子の靴』など
- 〔第9回〕 能体験後のクローデルの作品③ 日本滞在後の作品 その1 『クリストファ・コロンプスの書物』など
- 〔第10回〕 能体験後のクローデルの作品④ 日本滞在後の作品 その2 『火刑台上のジャンヌ・ダルク』など
- 〔第11回〕 まとめ 日仏演劇交流史をもとに
- 〔第12回〕 総括

テキスト：プリントを適宜配布します。

参考文献：クローデルの作品**翻訳

*エッセイ集

『朝日の中の黒い鳥』（内藤高訳）講談社学術文庫（講談社、1988年）

*劇作品

『真昼に分かつ』（鈴木力衛・渡辺守章訳）筑摩世界文学大系第56巻『クローデル ヴァレリー』（筑摩書房、1976年）
『繻子の靴』上・下（渡辺守章訳）（岩波文庫、2005年）

『クリストファ・コロンプスの書物』（鈴木力衛・山本功訳）筑摩世界文学大系第56巻『クローデル ヴァレリー』（筑摩書房、1976年）

『火刑台上のジャンヌ・ダルク』（安藤信也・矢代秋雄訳）『今日のフランス演劇』第4巻（白水社、1967年）

クローデルの作品**フランス語
Paul Claudel, *Œuvre en prose*, Paris, Gallimard, 1965.

Paul Claudel, *Théâtre*, tome I et II, Paris, Gallimard, 2011.

研究書**フランス語

Moriaki WATANABE, « Claudel et le Nô » in *Etudes de Langue et Littérature*

françaises, n° 6, Tokyo, Hakusuisha, 1965, p. 61-77.

Ayako Nishino, *Paul Claudel, le nô et la synthèse des arts*, Paris, Classiques Garnier, 2013.

ISBN 978-2-8124-0865-6

参考文献は授業の進行に応じて紹介していきます。

受講上の要望または受講上の前提条件

必要に応じて、フランス語の原文を扱うこともあります。

成績評価方法

最終日の試験によります。

ロシア文学②

講師 三好 俊介

「ロシア詩入門：古典から現代まで」

ロシアは実は、詩が大変盛んな国である。この講義は、名作として知られるロシア詩のうち平易なものを概ね年代順に日本語訳で読みながら、作品の背景をなすロシア文学史や社会史の流れにも親しむことを、狙いとする。読解にはもっぱら日本語訳を用いるが、ロシア語原文の朗読（俳優のテープ音声か、教員の朗読）も必ず一度は聴き、言葉の響きの美しさに触れてもらう（なお、ロシア語を理解する必要はない）。詩歌は「短く簡潔」という、小説にはない特徴をもつが、本講義ではこのメリットを生かし、作品の一部を細切れに読むのではなく、ゆっくりと作品全体を満喫したい。読み方のコツは教員が解説するので、詩を読んだ経験のない学生も全く心配ない。作品を味わいながら、先人の思索に学ぶ楽しみを知るとともに、ロシア文化への知識を深めてもらいたい。

〔第1回〕 概論 ロシア詩の略史 作詩法上の約束事

〔第2回〕 19世紀「黄金時代」（プーシキン等）

〔第3回〕 西欧との交流と相克（チュッチェフ等）

〔第4回〕 ロシア社会の構造的変化と、詩歌の危機（バラティンスキー等）

〔第5回〕 詩にうたわれたロシアの自然（チュッチェフ、フェート）

〔第6回〕 20世紀「銀の時代」（ロシア象徴派）

〔第7回〕 モダニズムと詩的実験（1）（ツヴェ

- ターエワ、アフマートワ等)
 [第8回] モダニズムと詩的実験(2)(パステルナーク、フレーブニコフ等)
 [第9回] ロシア革命と文学。熱狂から苦悩へ(エセーニン、マヤコフスキー等)
 [第10回] 亡命ロシア詩(ホダセヴィチ、プロツキー)
 [第11回] 雪解けから現代まで(オクジャワ、アイギ等)

- [第12回] 総括
 テキスト：プリントを適宜配布する。
 受講上の要望または受講上の前提条件
 予備知識やロシア語の知識は全く不要。
 成績評価方法
 以下の2点をもとに総合的に評価する。
 (1) 平常点(出席は2/3以上必要)
 (2) 筆記試験(最終回に実施)

第1・2・3類共通科目

総合講座「間(あわい)を考える」②

文学部准教授	近森	高明
文学部教授	井出	新
文学部教授	上枝	美典
文学部教授	梅田	聡
文学部教授	糸川麻里生	
文学部教授	杉本	智俊
文学部教授	鈴木	淳子
文学部教授	鈴木	正崇
文学部教授	平野	昭
文学部准教授	井上	櫻子
文学部准教授	清水	明子
文学部准教授	山梨	あや

講義要綱は53ページを参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は、他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含められる科目です。

以下の科目の講義要綱は、経済学部専門教育科目を参照してください。

【第1類に属する科目】

哲学特殊② 講師 鈴木 平
「社会思想史」と同じ。

社会学特殊② 講師 齋藤 香里
「社会政策」と同じ。

社会学特殊② 講師 永井 攻治
「社会福祉論」と同じ。

法学概論② 法学部教授 霞 信彦

【第2類に属する科目】

西洋史特殊② 講師 篠原 洋治
「専門外国書購読（英書）」と同じ。

西洋史特殊② 講師 鈴木楠緒子
「西洋経済史」と同じ。

以下の科目の講義要綱は、法学部専門教育科目を参照してください。

【第1類に属する科目】

哲学特殊② 講師 原田健二郎
「政治思想論」と同じ。

社会学特殊② 講師 宣 元錫

社会学特殊② 法学部教授 玉井 清
「日本政治論」と同じ。

社会学特殊② 講師 手賀 裕輔
「国際政治論」と同じ。

マス・コミュニケーション論② 講師 山口 仁

【第2類に属する科目】

日本史特殊② 講師 漆原 徹
「法制史」と同じ。

日本史特殊② 講師 神野 潔
「法制史特殊」と同じ。

日本史特殊② 講師 小田 義幸
「日本政治史」と同じ。